

# みりよく はだの 魅力あるまち 秦野のために

## — 谷かずお 7年半の議会報告 —

秦野市議会における代表質問及び一般質問の要旨

### 1 秦野の 安心

#### ●災害時の官民連携について● (一般質問 平成28年12月)

**谷・質問** ひとたび大規模な災害が発生すると、市単独の災害対応では、限界もあると考える。そこで、地域の力である市内事業者等との連携が必要と考えるがどうか。

**市・回答** 幅広い分野で官民連携を確保していく。

**谷・要望** 市内地域により自然環境も異なり災害状況も様々であるからこそ、より多くの対応が求められる。よって多くの協会、組合、事業者との連携締結に努力するよう要望する。



#### ●地域医療の充実・強化について● (代表質問 平成31年3月)

**谷・質問** 自宅に近い場所で出産できる環境や、市民が安心して医療を受けられる体制を整備していただきたい事は、常々要望している。令和4年度から秦野赤十字病院では小児科常勤医師が3人体制となり、入院受け入れの再開を期待している。分娩再開にも繋がるものと期待するが今後はどうか。

**市・回答** 小児科の入院受け入れを期待し、医療機器等の支援をする。小児科再開は分娩業務の再開に繋がる一歩と考えている。

**谷・意見** 引き続き本市の分娩環境の整備に努力をお願いします。私も秦野赤十字病院の運営改善に向け、人間ドック検診を始め診療も利用させていただく。

### 3 秦野の 生活

#### ●出産・子育てにやさしい取り組みについて● (一般質問 平成30年12月)

**谷・質問** 秦野赤十字病院の再開が多くの市民から望まれている中、平成30年4月の診療報酬改定で新設された妊婦加算により、妊婦の外来診療時の負担が増えた。加算は少子化対策に逆行しており、出産への意識低下が懸念されると考えるがどうか。

**市・回答** 加算による経済的負担への心配や産婦人科以外の診療科への受診控えなどから厚労省が制度の見直しを検討したとのことだが、今のところ報道のような相談はない。

**谷・質問** 若者世帯の負担が増える中、妊産婦への支援はどのようか。

**市・回答** 妊産婦健康診査、妊婦歯科検診、特定不妊・不育症治療費に助成しており、妊産婦と家族が安心して子育てできるよう努めていく。

**谷・要望** 産後の母親と子どもを対象とした産後ケア事業への支援の充実とともに、妊産婦加算は国の動向を注視し、助成を含め若者世帯への支援を要望する。

#### ●超高齢社会に向けた取り組み● (一般質問 平成28年9月)

**谷・質問** 超高齢社会に突入する中で、健康長寿社会の実現が必要と考えるがどうか。

**市・回答** 健康長寿社会やみんなで支え合う社会の実現を基本とした高齢者施策を展開していく。

**谷・実現** この答弁を受け、平成30年までは、後期高齢者人間ドック検診助成人数は上限750人でありましたが、令和元年度より、申し込み者全員に助成できるようになりました。



### 2 秦野の 経済

#### ●秦野サービスエリアスマートインターチェンジを活かした周辺土地利用について● (一般質問 平成28年6月)

**谷・質問** 戸川土地地区画整理事業は、新東名開通に合わせて本市発展の千載一遇のチャンスである。企業誘致の取り組みはどうか。

**市・回答** 本市の優位性を企業に示し、シティーセールスを行っている。企業が本市を立地候補地に選定していただけるよう取り組んでいる。

**谷・意見** 企業にとって秦野を事業所として選定いただける準備はしてきたと考える。水道料金を近隣他市よりも安価に料金改定し、企業が取得した土地をより有効に使えるよう条例も改正したので、本市の魅力を発信してほしい。

**人口増加と企業誘致** 少子高齢化が急速に進む中で、生産年齢人口の拡大に繋げるため、市内へ企業進出しやすい環境を整えました。以前は、企業が取得した土地(工専)の85%しか使用できませんでしたが、95%を使用できるように条例(市の法律)の改正を訴え、平成29年に実現しました。

### 4 秦野の 魅力

#### ●特色ある学校づくりについて● (一般質問 平成27年9月)

**谷・質問** 地域の核である上小学校は自然に恵まれたのびのびと学べる小さな小学校である。少人数ゆえに他地区からの児童が受け入れ可能なことから「小規模特認校制度」を導入し、学区をなくして本市どこからでも就学できるよう前向きに取り組んでいるが、取り組み状況はどうか。

**市・回答** できるだけ早期に上小学校の小規模特認校制度の導入を進めていく。



#### ●農業生産工程管理(GAP)● (一般質問 平成29年6月)

**谷・質問** 本市はGAP制度をどのように捉え、制度取得後の更新時の費用支援の考えはどうか。

**市・回答** 本市の農産物を世界にPRできる制度のため、取得に向け準備していく。また、国県の支援に追加して、本市が支援する方法を検討する。

**谷・要望** 本市の名水で育った農産物を世界に向けて発信できる制度であるので、農業者がGAP制度を利用できるよう申請等の支援を要望する。



#### 小規模特認校制度の導入 —学力向上と地域活性—

特色ある学校づくりと少人数での学力向上を目指し、小規模特認校制度導入を2020年に実現しました。併せて、児童数増加の小中学校においても1クラス35人学級を目指し、環境整備に努めます。

#### ●住宅施策について● (一般質問 令和2年12月)

**谷・質問** 本市の取り組み空き家バンクの状況と、調整区域内でも住宅が建てられる制度である、さと地共生住宅開発許可制度の取り組み状況はどのようか。

**市・回答** 空き家バンク開設後3件が成約した。さと地共生住宅開発許可制度は、候補地リストを抽出し流通に向けて取り組み、更に利用しやすいように基準の見直しを検討していく。

**谷・要望** コロナ禍、ウイズコロナの時代に人口移動は首都一極集中から地方分散へと一気に進んだ。空き家バンク制度や、さと地共生住宅開発許可制度を活用し、自然環境に恵まれた本市の優位性を十分発揮して、首都圏からの移住の受け皿となるよう要望する。